

長崎の地で、「平和」を考え、語る。



1日目／被爆体験講話をきいて印象に残ったこと

いろいろ聞いた中で、最後の「核をなくしたい」とか「平和を続けたい」とか、実際に体験した人の話だからこそ、切実な思いを感じた。

心から願っているんだなと思った。当事者じゃないとわからないことを聞いてよかった。

2日目／原爆資料館見学、散策を通して

「記憶」としても「もの」としても残っていた。つらいとか、忘れたいとかそういう気持ちもあると思うのに。「長崎を最後の被爆地に」って書いてあったのが印象的だった。

自分たちもつらいけれど、それ以上に「同じように嫌な思いをしてほしくない」という平和を願う意思とか、「戦争をなくしたい」という思いが感じられる散策だった。

被爆体験講話をきいて考えたこと・感じたこと

戦争をしたいとか、世界が平和なのはいやだというひとはいないはず。だけど、平和を求めているという考えは同じでも、その中で「ずれ」が生じてしまっていていろいろな問題が起こっていると思う。

本当にみんなが一つの平和を信じられたり、それに向かっていけることが、平和への第一歩なのかなと思う。

道徳（永井隆さんの生涯）のときにも言っただけ、みんな誰かのことをどこかで愛している。自分、家族、友達。

だけど、それぞれが自分の愛している物や信じているもの、正義を押し通して、万人にそれを押し通そうとするから、そういうのが戦争のきっかけ。それは「価値観の違い」にあたるものだと思う。

日本も被爆国として、核をなくすことはできなくても、直接何かできなくても、声をあげることができる。

心に届かせられるような行動をできればいいと思う。そういう意思を拾って伝えてもらえるといいかなと思う。

3 C F.A

今感じている、自分にとっての「平和」とは

「楽しくやろう」とか無理にしなくても、泣いたり、笑ったり、そういうどこにでもありそうな、普通のどこにでもありそうだが、何気なく意識しなくても、それが続いている状態だと思う。



※この記事は、H30年度の修学旅行中に感じたことをインタビューした内容です。できるだけ原文そのままに、彼自身が語った言葉で記録しました。